

令和4年度 大阪府立牧野高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日 時 令和4年12月7日(水) 13:30～14:30

場 所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

協議会委員 松宮 新吾(会長)、有堀 正彦(副会長)、福原 哲晃、
尾崎 順子、田中 博、藍原 雅代

学校長 高松 智

事務局 田中 眞、石田 暁、大塚 正宣、中務 正和

1、会長挨拶

今日は師走のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。コロナの第8波と言われているが、牧野高校の特色である学校行事はコロナの制限の中で進められてきているということでお伺いしております。また、3年生は推薦入試が始まってきて良い結果が出ていると聞いておりますが、これから年を越して共通テストが予定されています。生徒の頑張りというものもこれから期待されるところです。本日は一番のメインである「スクールミッションについて」事務局の方からご説明を頂き協議いただいた上でご承認をいただくという流れを進めていきたいと考えております。学校運営協議会の実施要項第2条に学校運営に関する基本的な方針について協議会の承認を得なければならないとあります。また、第十一条第2項に基本的な方針について協議するとあります。協議を経た上で承認になりますので、ご協力どうぞよろしくお願いたします。

2、校長挨拶

本日はありがとうございます。7月の第1回学校運営協議会以降、本校では9月の文化祭は3年生の保護者のみお招きして開催をさせていただきました。10月の修学旅行は滞りなく無事にメニューをこなすことができしております。若干の陽性者が出ていますが平常の学校教育活動ができているというところです。

昨今テレビや新聞等で報道がありました「生徒の部活動の保証や働き方改革の観点から府立高校で合同部活動のためのペアリングを検討」という話題がありますが、本校については立地条件から対象となっております。

また10月22・29日の午前と午後それぞれ100組200名を定員として4回の学校説明会を行いました。多くの中学生と保護者の皆さんにご参加をいただきました。12月17日の午前にも第5回の学校説明会を予定しておりましたが、受付開始日に定員に達してしまいましたので急遽17日の午後にも追加説明会を実施することで各中学校に案内をさせて頂いております。多くの中学生の方から本校に関心を頂いているということ喜んでおります。この結果に甘んじることなく、より魅力的な学校として牧野高校を発展させていきたいと考えております。本日は限られた時間でございますが忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、今後の学校運営に活かしたいと考えております。皆様どうぞ宜しくお願い致しますよろしくお願いたします。

3、スクールミッションについて・・・学校長より説明

- 会長・・・スクールミッションについて協議を頂いて協議が終わった段階で承認をいただく。そして後は事務局の方に教育庁とのやり取りの中で若干の修正が入るということをご承認いただければと思っております。早ければ今年度の第3回学校運営協議会で、遅くとも来年度の第1回学校運営協議会でお示しいただくことになる。今からそのもととなる部分を協議していただきます。

- 委員・・・ミッションというのは会社で言うと経営理念に相当する普遍的な永遠の目標であると認識しています。スクールポリシーや学校経営計画は長期経営計画や3年計画という位置付けになると思うが、牧野高校の特色としては部活動や学校行事で自尊心や思いやりといった非認知能力を育てるところに魅力を感じているという人が非常に多いという風に思っている。一方で、毎回、本協議会でもあった通り、国公立受験の受験者数や合格パーセンテージなどの文言が入ってほしい。
- 委員・・・私も同感です。ここに書かれていることは牧野高校が創設以来めざしてきた教育理念を具象化したもの。実践してきたことを明確にさせていただいた。この案で良い。
- 委員・・・今までやってこられていることを書いておられる印象。これからも同じようにされていくことを書かれていると感じる。
- 委員・・・今までやってこられていることを上手く落とし込んでいる。これで結構である。ポリシーはそれよりも短期間で実現するための方針であり、このような形で結構である。
- 委員・・・初めて耳にする言葉が多かったが、今、先生方が子どもたちにしていることが書いてあると感じる。分かり易い授業や自主性、自尊心、思いやりと言ったことがあり、これをお願いしたい。
- 会長・・・大きな枠組みを作っていく際に、この文言の読者が誰であるのかという想定が必要。保護者や生徒はもちろん教職員が読んで理解し趣旨がはっきり伝わるような表現や内容であるように今後工夫が必要になってくると思われる。ただしこれは大きな大枠となりますので具体的なものはスクールポリシーで様々なものが出されると思っています。例えば教科横断的な視点を具体的にどこに落とし込むのか期待しているところです。

→ 承認

4、授業アンケートについて・・・学校長より説明

生徒たちが全教科の担当教員について質問項目それぞれについて4点を満点として回答したものです。昨年度の学校運営協議会では全体平均「3.39」の数値について「これ以上上がることはない」とのご意見を頂戴していたとお聞きしておりますが、今年度はそれを大きく上回る「3.45」となりました。また自由記述欄の「改善してほしいと思う授業への意見」が令和3年は204件でしたが、令和4年は118件と減少していることも数字の改善として顕著に表れています。

年度当初の職員会議において私の方から先生方に

- 生徒の悪口を言わない、嫌味を言わない
- わかる授業をしてください
- 牧野高校に来て良かったと言われるような学校づくりをしてください

ということをお願い致しましたが、こうした結果になって非常に嬉しく思っています。これらの要因ですが今年度に入って特に取り組んでいることはありませんが、授業見学をしていますと授業アンケート結果の数値が高い先生の授業は様々な工夫があり生

徒を飽きさせず、分かりやすい授業を行うために ICT を上手に使っておられます。私も感心するような授業をされている先生がいらっしゃいます。この数値をこれ以上上げるのは難しいと思いますが、中には残念ながら思うような数値が得られていない先生もいらっしゃいます。そういう先生方に対して助言を行い研修や授業見学を実施することで全体のボトムアップに努めていきたいというふうに考えております。

- 委員・・・上位を占めているのが20～30代の先生方ということになるが、前回質問した時は「言葉の共通性」や ICT 使い方がうまい等のアドバンテージがあるとの事だが、40～60代の経験値を上回る程のアドバンテージあるのでしょうか。
- 校長・・・若い先生方は電子機器の使用に非常に慣れておられ、その点が50代の人と大きく違うと思います。若い先生は本校の全教室に設置されている電子黒板を使って視覚に訴える授業をよくされる。ベテランの先生方にもそれぞれ持ち味はあるが、生徒達自身もスマホの世代なので電子機器を利用した授業の方が理解しやすいという意識があります。それに触発されて50～60代の先生もご自身で勉強されて電子機器を利用されている方が結構いらっしゃる。
- 委員・・・平成29年度には60代の数値が悪かったがどんどん向上している。
- 校長・・・大半の方が電子黒板を使って授業をされている。
- 委員・・・令和元年度からとても数値が上昇している。これは本校の取組みが実を結んでいる。このまま続けて欲しい。
- 校長・・・ICT機器の研修を年に数回実施するが、一昨日も研修を実施しました。ICT機器の扱い方を実際に体験してもらって「これを使えばこんなことができますよ」という研修に年配の方も若い方も年齢に関係なく皆参加されています。皆さん随分習熟されたという気がしている。
- 委員・・・今年度のグラフが示すとおり、年齢層でのばらつきが小さくなっている。習熟が上がってきたということ。
- 会長・・・教科横断的という言葉がありますが、教科にかかわらず優れた授業を学校内で参観するような校内研修を意識的に設けられているのでしょうか。
- 校長・・・意識的にというとそうではない。ただ経験の浅い先生方の様々な研修時に多くの先生方が見学に行かれているが、学校全体として積極的には出来ていない。
- 会長・・・どうしても狭い世界に閉じ籠ってしまうとなかなか次の変化や改善が起きにくいと認識しています。またそういう機会を教科横断的にしていただきたい。年齢層でのバラツキが少なくなっている。それぞれの先生方の力量が確実にアップしている。

5、職員超過勤務について・・・学校長より説明

今年度はコロナによる学校休業や大阪府の指示による部活動の自粛などは実施されていないにも関わらず先生方の超過勤務は大きく減少しております。年度途中ですので、まだしっかりとした検証を行っているわけではありませんが、推察しますに3点の理由が考えられます。まず一つめは教職員の異動に関することです。昨年度末で9名の先生方がこの学校を異動され8人の先生をお迎えしました。その先生方の10月までの超過勤務の平均値を見ますと30%減になっております。二つめとして部活動指導員の活用です。これは大阪府が行なっている制度で、登録した指導員が該当の部活動を指導しますが、その指導員は学校の教職員と同様に単独で付き添いを行うことができ対外試合

や公式戦にも引率が出来ます。時間外が特に多い教員の受け持つ部活動への活用として今年度申請を行い8月から活用を始めています。三つめとして教職員の意識です。今年度に入って職員室において時間外勤務を減らす声かけや会話をよく耳にするというふうに聞いています。一つ一つは大きな効果はないと思われませんが、教育の質を維持しながら先生方の意識の変化により時間外勤務が減少してきたことは非常に良い傾向です。引き続き業務の均等化を測り様々な制度を活用しながら、時間外勤務減少の意識の醸成に努めたいと考えております。

- 委員・・・トータルで見ると86.0%ということですが、面談対象は特定の先生に集中している傾向でしょうか。
- 事務局・・・その通り。ある程度同じ先生である。
- 会長・・・それにしても100時間を超えるというのは大変である。
- 校長・・・部活動を熱心に指導いただいていると、どうしても時間外が増える傾向にある。
- 会長・・・超過勤務が軽減すればいいというものではなく、結果がしっかりと伴う仕組みづくり組織づくりをお願いします。

6、その他

- 委員・・・大阪弁護士会からの派遣事業はいかがであったか。
- 事務局・・・その節はありがとうございました。学年主任からは、各クラスに弁護士さんが1人ずつ入り、担任では出来ないような、詳しい話を非常に丁寧にしてくださり、おかげで生徒の理解が進んだと聞いている。自分事として捉えるきっかけづくりになった生徒も多い。来年度も学年の意向があればお願いしたい。
- 委員・・・牧野高校が率先して、法教育を進めていただければ。
- 会長・・・成人年齢のことだけではなく、今話題になっている宗教法人の問題やヤングケアラーは自分自身が該当するのか認識できない問題もあると聞いている。そういう問題への啓蒙教育も推進していただければ。

7、閉会

学校長よりお礼